

平成30年度第5回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：若者から見た中山間地域の魅力と課題
- 2 日時：平成31年2月20日（水）14:45～
- 3 場所：農村型リゾート南和気荘（久米郡美咲町藤田上357）
- 4 参加者：中山間地域で地域研究や集落活動の支援を行ってきた大学生や地域おこし協力隊員、移住者等：7名

5 知事挨拶

今回は中山間地域に関わって活躍している皆様から、これまで行なってきた活動の紹介や中山間地域の可能性や課題、県や市町村に頑張ってもらいたいことなどについて、ざっくばらんに意見をお聞きしたい。

6 発言内容等

【自己紹介・今まで行ってきた活動について】

- ・私が所属している研究室では、4年前から美咲町大坪和地区のまちづくりや地域創生について研究を行なっている。そこで行なわれているイベントの手伝いで地域活動に参加している。
- ・中山間地域の農業や食を考えるゼミに所属している。「地域に飛び出せ！大学生研究・交流事業」のプロジェクトを通じて、津山市上加茂知和地区でフィールドワークを行なっている。
- ・フリーのカメラマンとして活動し、「おかやま！元気集落応援団」の一団体として活動している。アメリカ生まれのアメリカ育ちで岡山には1年半しか住んでいないが気に入っている。
- ・3年前に地域おこし協力隊として浅口市に移住し、地域づくりのお手伝いや地域の困りごとなどを聞いて市役所につないでいる。
- ・協力隊任期中に一般社団法人を立ち上げ、隊を卒業した後は、社団法人の活動に加え、市役所で協働コーディネーターとして活動している。
- ・昨年4月から久米南町で地域おこし協力隊として移住・定住促進や若者コミュニティ醸成のための活動を行なっている。具体的には、移住相談会への参加、田舎暮らし体験ツアーの企画、町内の移住者を集めての交流会を開催している。
- ・所属する大学のゼミで、農山村に入ってフィールドワークを行なっている。
- ・地域に入って魅力を発信できるようになりたいと思い、津山市内の情報系の企業で内定をもらい、少しずつ仕事をさせてもらっている。
- ・美咲町大坪和地区で築180年の古民家を購入し、セルフビルドで改修し

て週末にベーカリーカフェを開いている。平日は地域の困りごとを解決する便利屋サービスを行なっている。

【活動の中で見つけた中山間地域の魅力や課題】

- ・大埴和地区は、棚田や山が近く豊かな自然が魅力だ。
- ・2年間で6～7回津山市知和地区に行っている。行く度に地域の人とのつながりが強くなっていると感じる。知和の方が人との関わり合いを大事にしていることが魅力だ。また、知和の方はNPOなどで活動している人が多く、自主的に地域をなんとかしようと思っている人が多いことが知和の魅力である。
- ・海外から来た人は地域の歴史について知りたいと思っている。YouTubeで地方の映像を見て東京だけでなく地方に行きたい人は多い。
- ・日本人は、始める前に「しょうがない」と言ってあきらめることが多い。
- ・瀬戸内の、波がなくて穏やかな風景は魅力的。温暖な気候に合わせて、住民が穏やかに暮らしている。漁師町ならではの近距離感・関係性も魅力的。
- ・課題は地域の問題に対する危機感が感じられないこと。地域課題解決で先行する知和などの情報をつなげるのも私の仕事だと思う。
- ・中山間地域の方は、都会に比べ地縁が強いことが魅力だと思う。自分たちの土地に対する気持ちも強い。地域は危機感を持ってまちづくり活動をしている。
- ・町内にはまちづくり団体が点在しているが、団体同志が連携できていないのが課題。
- ・久米南町は新規就農者の受入体制が整っており、田舎暮らしをするにはちょうどいいが、空き家や住居が少ない。移住相談件数は年間100件ほどあるが、空き家が町内に300軒あるのに20軒も登録されていない。
- ・大学の活動で全国の中山間地域に行き、高齢者の話を聞くと、「若い人がいない。あなたみたいな若い人が来るのは久しぶりだ」とよく言われる。実際、地域には20代～30代がいない状況だ。
- ・中山間地域から出て行った人が戻ってきたり、都市部の人にIターン移住を考えてもらうことが必要。
- ・生活コストで比較すると、中山間地域は悪くはないが、文化活動に触れる機会を増やせば人が戻ってきたり、移住者が増えるのではないか。

【中山間地域のために県や自治体が取り組んでほしいこと、中山間地域の可能性について】

- ・外国人にとって日本語の文章は難しく、手続きも難しい。漢字は読むだけで苦勞する。YouTube の撮影の許可をもらうのも大変。行政やNPO等がコーディネートする仕組みがあればよい。
- ・備中松山城に行ったとき、戦時中、女子学生が石を運んでいたという説明が日本語でしてあり、理解するのが難しかった。そういった歴史についても外国人は興味があると思う。
- ・牛窓に行ったとき95歳の元気なおばあさんと会って話をする機会があった。アメリカではまずこんな経験はできない。そういった出会いも楽しい。
- ・地域の人たちで空き家や空き店舗を活用して拠点づくりをしている。地域の人が運営し地域の情報を提供する拠点がいろんなところであればよい。
- ・地域には気さくな高齢者の方もいる。そういった方と外から来た人をつなげる場所をNPOや行政が作ってほしい。
- ・地元の人が気軽に訪れてくれたり、他県から来る方が集落に立ち寄れるお店にしたい。里山でも5人家族で暮らしていけることを紹介できればと思う。
- ・自分も地域活動で第2のおじいちゃん、おばあちゃんに会えるのを楽しみにしている。大学生や高校生、中学生が気軽に交流できる仕組みづくりやイベントがあるとよい。
- ・その情報発信を行政やNPOが行い、小学生や中学生、幼稚園、地域の人にPRすれば参加者が増えるのではないか。
- ・地域包括ケアで社会福祉協議会が行なっているサロン活動に高齢者が介護予防で参加している。そこに若者を受け入れる仕組みができるとよい。
- ・人が移住しやすいまちは多様性が存在するまちだと思う。移住者はマイノリティである。「この土地は間口が広い」という看板があった方が注目されやすいと思う。

7 知事まとめ

- ・地域では、移住者の方々が持つ多様性に慣れていない面もあるが、その移住者から学ぶこともたくさんある。
- ・移住者を受け入れる地域も移住者の方もどちらも幸せになれるという事例を1つでも多く作っていきたい。